

7. 促成栽培イチゴにおけるシルバー寒冷紗障壁とシルバーポリマルチを用いたヒラズハナアザミウマの被害回避（技術）			
[要約] 促成栽培イチゴ圃場の周囲にシルバー寒冷紗とシルバーポリマルチを設置するとヒラズハナアザミウマの飛び込みを抑制し、果実の被害を減らすことができる。			
研究室名	病虫研究室	連絡先	0869-55-0543

[背景・ねらい]

春期のイチゴ圃場では、ヒラズハナアザミウマによる果実の食害が問題となる。しかし、ハダニ類の防除に天敵チリカブリダニを利用する場合、ヒラズハナアザミウマに対する薬剤防除は制限される。そこで、アザミウマ類の飛び込み抑制に効果があるとされるシルバー寒冷紗を用いた障壁及びシルバーポリマルチを圃場の周囲に設置し、ヒラズハナアザミウマのハウス内への飛び込み防止効果を検討する。

[成果の概要・特徴]

1. 促成栽培イチゴ圃場で、定植時から栽培終了時までハウスサイドから約 1m 離し、シルバー寒冷紗（幅 180cm 程度、目合い 0.8 mm）を高さ約 1.5m の障壁になるよう設置し、ハウスと障壁の間にシルバーポリマルチを敷設した（図 1）。
2. シルバー寒冷紗障壁とシルバーポリマルチの設置により、ハウス内へのヒラズハナアザミウマの飛び込み数が減少したため、冬から春にかけてのハウス内での増殖が抑制され（図 2）、少なくとも 5 月下旬までは花内の個体数も少なかった（図 3）。その結果、果実の被害も抑制された（図 4）。
3. 寒冷紗障壁を設置したハウス内の平均温度及び平均湿度は、設置しなかったハウスと大きな差はなく、栽培上の障害とはならなかった（データ省略）。

[成果の活用面・留意点]

1. 定植前及び冬期の防除を徹底して、ハウス内のアザミウマ類密度を低く保つ。
2. 寒冷紗の裾がまかれるとアザミウマ類の侵入を招く。これを防ぐため寒冷紗の接地部は土中に埋め込むなどの方法で固定する。

[具体的データ]

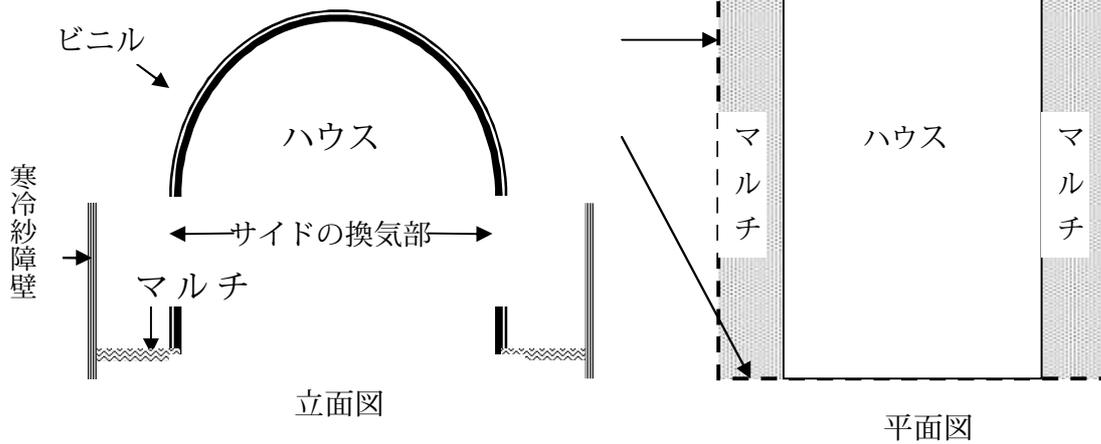


図1 寒冷紗とマルチの設置法

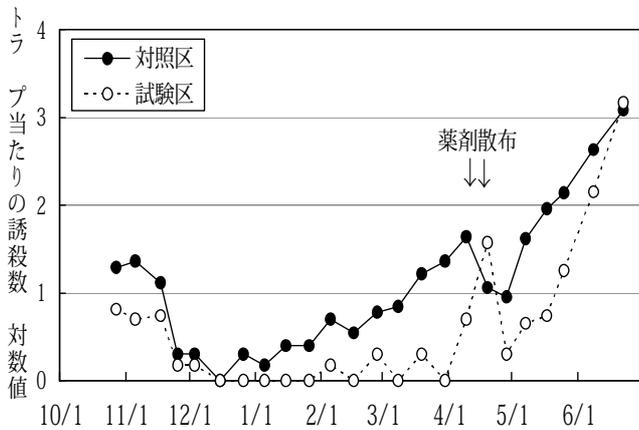


図2 ハウス内の青色粘着トラップにおけるヒラズハナアザミウマの誘殺消長の推移

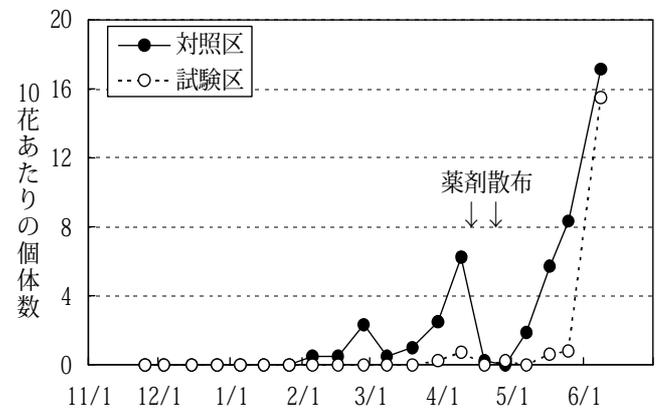


図3 花内におけるヒラズハナアザミウマ成虫の密度推移

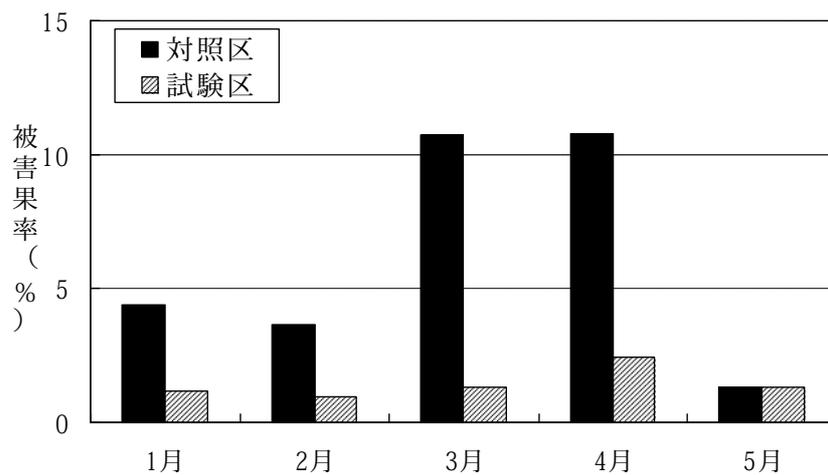


図4 月別被害果率

[その他]

試験研究課題・事業名：天敵を活用した減農薬果菜栽培の定着化技術の確立

予算区分：国補（病害虫防除農薬環境リスク低減技術確立事業）

研究期間：平成 13～15 年度